喫煙へのイメージが大学生の喫煙行動に与える影響

吉澤　天翔

日常生活においては、交通違反やギャンブルのようなリスクテイキング行動が行われることがある。リスクテイキングを敢行するか回避するかの規程因として、リスク認知とベネフィット認知が挙げられる。リスクが低く見積もられ、ベネフィットが大きく評価される場合ほど、リスクテイキング行動が生じやすい。しかし喫煙行動については、健康を損なうリスクが広く認知されている一方で、これといったベネフィットがないにも関わらず、依然として男性の 3 割弱、女性の 1 割弱が喫煙者である。長期的な喫煙習慣がある者においては、ニコチンへの依存が喫煙を続ける要因でもあることから、禁煙治療のような医学的介入が必要であるが、喫煙を開始しようとするタイミングにおいては、喫煙への動機に影響を及ぼす心理的要因を明らかにし、その要因へのアプローチによって喫煙を予防できる可能性がある。そこで本研究では、大学生の喫煙開始に及ぼす要因について検討することを目的に 2 つの調査を実施した。

まず調査Ⅰでは、心理的要因である人生全般に関する将来の目標（将来の願望）、「悪」や「非行」への憧れであるアウトロー傾向、そして喫煙者に対する外見評価の 3 要因が、大学生の喫煙状況にどう影響するか、93 名を対象とした web 調査を実施した。回答者の喫煙状況については、行動変容モデルを用いて 4 つの段階（無関心期、関心期、準備期、実行期の順に喫煙の段階が進行）に分け、この段階の進行に上記 3 要因が及ぼす影響を検討した。重回帰分析の結果、喫煙に対してかっこよさや大人っぽさといった外見的魅力を高く評価する人ほど喫煙段階が有意に高いことが示された。

次に調査Ⅱでは、個人の内的な要因だけでなく、周囲の環境の影響も含めて喫煙開始要因を総合的に検討するため、web 調査で集めた 20 歳以上の大学生 130 名のデータをプロトタイプモデルに基づいて検討した。プロトタイプモデルとは、社会的・環境的要因に対する反応を反映する行動受容と、個人の熟慮に基づいた行動意図の 2 要素が行動を規定するとした理論である。本研究における行動受容は、パーティーに参加した際に友人の多くが喫煙している状況を想定させ、とても仲の良い友人からたばこを勧められた際の対応を尋ねた。一方で行動意図は、今後喫煙するつもりがあるか否かを尋ねた。これらに影響しうる要因として、喫煙への態度、記述的規範、命令的規範、記述的規範、リスク認知、プロトタイプイメージを取り上げた。プロトタイプイメージは、典型的な男性喫煙者、典型的な女性喫煙者、典型的な非喫煙者に対して、ポジティブ/ネガティブな意味をもつ形容詞がどの程度当てはまるかを尋ねた。構造方程式モデリングを用いてモデルを修正した結果、命令的規範、典型的な女性喫煙者のプロトタイプイメージ、リスク認知から態度へのパスが有意であり、その態度が行動意図に影響することが明らかとなった。また典型的な女性喫煙者に対するポジティブなイメージ、リスク認知、記述的規範から行動受容へのパスが有意であった。さらに、行動意図は行動受容にも大きな影響を及ぼすことが示された。また喫煙状況について、これまでに一度でも喫煙したことがあるか否かの 2 群に分けた場合、行動受容も行動意図も同程度に作用するが、習慣的に喫煙する人、滅多に吸わないか辞めた人、喫煙したことがない人の 3 群に分けた場合には行動意図が大きく作用していた。

調査Ⅰ、調査Ⅱの結果から、喫煙者に対して魅力を感じることが喫煙開始に最も大きく影響することが分かった。以上より、喫煙開始を予防するためには、健康を損なうリスクを強調するのみならず、喫煙者に対するイメージに注目した防煙教育の重要性が示唆された。従来から行われているアニメやドラマの喫煙シーンの規制に留まらず、喫煙者へのネガティブイメージの想起に繋がるようなポスターの作成なども効果を持つと考えられた。（安全行動学）